

令和2年度 学校評価書 (2学期終了段階での評価)

東近江市立能登川北小学校

令和 2年 7月 3日作成

<本年度の重点目標>

- 学力を高める 進んで学び、よく考える子の育成
- 豊かな人間性の涵養 心やさしく、助け合う子の育成
- 健やかな心身の育成 粘り強く、鍛える子の育成
- 信頼される学校づくり 地域と共に歩む学校の創造

<評価基準>

- A = 優れている (優れている状況にある ・ 数値基準 90%以上)
- B = 良い (良い状況にある ・ 数値基準 80%以上)
- C = おおむね満足 (課題はあるがおおむね満足できる状況にある ・ 数値基準 70%以上)
- D = 要改善 (課題が多く速やかな改善が必要な状況にある ・ 数値基準 70%未満)

<自己評価の総評>

総合評価【B】

○行事に関して、自分の目標を明確にし、声かけを続けたことにより、全員がその目標に向けて最後まで諦めずに取り組むことができたと感じている。子どもが「できた」とより感じることができるよう、その場で褒めたり、お家の方へもどんどん発信していきたいと思う。
 ○学級通信に子どもたちの日々の頑張りの成果物を積極的にのせることにより、保護者から「子どもたちの様子が分かって嬉しい」という声をいただいた。お家でも学校での頑張りを褒めていただくきっかけとなるよう、これからも続けていきたい。
 ○「特別活動にかかわること」については、改善の余地があると反省しなければいけない。くりみっ子運動発表会の取り組みを経て子どもたちにはついてきてはいるものの、その力を生かして次のステップへと、段階的に場を設定することができているとは言えない。先を見越し、子どもたちの成長を支援したい。
 ○年間を通しての見直しと6年間を通してのキャリア学習の見直しを行う必要がある。自分が見直しを持ち、系統立てた学習を意識して取り組んでいきたい。
 ○少しでも良くなったことや成長を子ども自身で自覚できるように、認めたり褒めたりしてきた。指導するべきことは職員で共通理解してタイミングを逃さず指導することを継続していきたい。
 ○6年間でつけた力、育った子どもを全教職員が共通理解して、より丁寧な個別支援による学力向上、大勢の中でも (中学校進学後) 自分らしく過ごせるコミュニケーション力、レジリエンス (回復力等) を、そして実行機能の補強に努めたい。
 ○ICTを活用した学級、学校運営について、更なるアイデアを生み出したい。県や市の動向を待つのではなく、先を見越して実践していきたい。

項	評価項目	成果目標・取組指標	自己評価	前回評価	自校の改善策
(1) 学校経営	① 学校目標	・学校だよ、ホームページ、関係団体会議等で積極的に発信する。 ・学校やPTAからの北小の合言葉「4つのあ」について知っている保護者を80%以上にする。	B	B	①児童会スローガンが昇降口に掲示されたことで、子どもたちが毎日見るので、自然と意識できたように思う。 ①一日に何度も更新しているホームページで学校の取組や子ども達の様子を発信できている。自治会を通じて学校便りを地域の方に回覧していただいているが、読んでいただいた方々からも発信していただけるように、評議員さんやボランティアの方々の配布をするというご意見を学校評価委員会へいただいた。 ②総合的な学習の時間の評価基準の作成を3学期中に行う。 ②職員が書き込める教科、道徳、地域連携、異学年交流の全体計画を掲示していく。 ②行事は、学校教育目標をベースに見直し、決定していく。
	② 社会に出て、自らよりよく生きていける力の育成	・小学校6年間を見通したカリキュラムを構築する。 ・年度2回以上園・小・中の異学年交流活動による地域等を題材にした学習の場を設定する。	B	B	
(2) 学習指導	③ 学力向上の取組	・児童一人一人が考えをもち、伝え合い学び合える授業の工夫・改善に努め、授業が分かるという児童を90%以上にする。 ・1年15分、2年20分、3年30分、4年40分、5・6年60分の家庭学習の指導を続け、家庭学習の習慣が身に付いたと答える保護者の割合を80%以上にする。	B	B	③学力調査に応じた苦手分野の強化を図る。カッテンプリントの活用。 ③発達段階に応じた自主学習への取組を検討していく。 ③教師が説明して分かった！ではなく、児童に話す機会(時間)を保障し、子どもが活躍する授業を心がける。子どもたちの定着や課題を把握して、授業中のなるほど！できた！分かった！を目指したい。また、分かる授業はもちろん大切にしていきたいが、疑問や分からないことをみんなで解決していきけるような授業でありたい。 ③学習アシスタントや学習指導員の支援により、子どもたちに向き合う時間がこれまで以上に確保されたことに感謝。それに甘んじることなく授業改善に努めたい。そして、少人数の良さを見出し最大限に生かしているかを振り返り、共通理解しておくべき個々の学習の定着状況や個別の対応で成果が出た取組等を全職員ができると良い。 ④学習規律の見直しを、学力向上委員会でも話し、実施していく。 ④自学への取組を熱心に行っている。6年間つけた力を明確にして、より家庭学習の習慣化を図るためにも、各学年の家庭学習の内容や指導方法等を確認して3学期にレベルアップを図りたい。
	④ 学習規律・学習集団づくり	・全学年一貫した指導「学びのスタンダード」を徹底する。(学習準備、ヘルプ、学習のあいさつ、声のものをさし、話し方、聞き方、鉛筆の持ち方等) ・授業中、教師や友達の話をしっかり聞く児童の割合を90%以上にする。	B	C	⑤家庭と連携して取り組んでいけるよう、3学期意識をして取り組む。家庭学習での読書を始めた取り組みを取り入れる。 ⑤読書活動においても、今までの取組にとらわれず、読書の喜びを知っている児童が周りに広められるような活動にしていきたい。 ⑥ALTの英語力を借りて、たくさんフレーズにふれながら、まずは日本語が混ざっていてもいいから、伝えたいことを伝えていけるように、表現活動をたくさん取り入れていく。 ⑥ALTとの交流を授業だけでなく、休み時間や学活など、積極的に取り入れていくことも考えていけるとよい。
	⑤ 学校図書館の活用・読書習慣の定着	朝の読書、読み聞かせ、図書室利用指導等により、年間1人50冊以上読めるようにする。 ・図書だよりにて親子読書と呼びかける。 ・すきまの時間に読書ができるように児童の身近に(図書バッグなど)読書する本を常備させる。	B	A	⑦定期的朝の会や帰りの会を見直すことで、児童が求める形にすることでより自立した活動になっていくのではないかと。 ⑦自分で解決しなければならない環境を設定して、その中で選択方法を考えさせていく。
	⑥ 英語教育(外国語活動)の充実	・担任が外国人講師等との連携を図り、コミュニケーション能力の育成をめざした授業を行う。 ・「英語の授業が好き」「英語の授業が楽しい」という児童を90%以上にする。	B	B	
	⑦ コミュニケーション能力の育成	・学習活動や朝・帰りの会で児童相互に伝え合う場面を設定し、話す力・聴く力の向上に努める。	B	B	
	⑧ 道徳教育の充実	・考え、議論する道徳科の授業を充実し、年間1回以上保護者に道徳の授業を公開する。	B	C	⑧3学期の参観日において、保護者に道徳の授業を公開する予定である。 ⑧道徳の年間計画を掲示し、やり終わった内容項目の確認や、他教科、行事等との関連を明確にする見直しを図る。 ⑨自分からあいさつのできる児童が固定されてきている。具体的な声かけをして、奨励していきたい。 ⑨年々、自分からあいさつをする子が増えてきている。労務員だけでなく、業者さんにも「ありがとうございます」と言っている子も多い。地域の方々にあいさつできるように意識を高めたい。
	⑨ あいさつの充実	・家の人や近所の人、友達などに自分からあいさつのできる児童の割合を80%以上にする。	B	B	
(4) 特別活動	⑩ 豊かな心情を養う体験活動の充実	・学校行事や縦割り活動の精選と質の向上を図る。 ・月1回以上学級会を行い、自分の思いを伝え、よさを生かしていけるようにする。	B	B	⑩縦割りの活動について、教員サイドが企画するものについては、子どもたちがその計画に則り、問題なく楽しい時間を過ごすことができているが、自分たちから「縦割りの活動しよう」という声が上がらな段階にまでは達していない。自然発生的に縦割りの活動が行われる(例えば縦割りの給食など、コロナの関係で難しいかもしれない)ことを期待したい。そのように仕組みたい。 ⑪今年度の2学期は、特にたてわり活動が充実したと思う。また、代表委員会を例に、学級でもっと意見や思いを言い合える機会をつくっていききたい。 ⑪たてわりそうじが始まったことにより、さらに「時間いっぱい、黙って掃除」が徹底できたように思う。いまは、高学年主導でそうじの計画やふりがえりを行っているので、もっと下学年も発達段階に応じたふりがえりや見つけ掃除ができるとよい。 ⑫児童のよる活動を充実させるために代表委員会を開いて準備を整え、思い出に残るものにつなげたい。次年度も続けていけるとよい。 ⑫異学年との交流は、発信の場として上手に活用されている。
	⑪ 勤労や奉仕の精神を培う生活指導の充実	・自分から進んで、時間いっぱい掃除ができる児童の割合を80%以上にする。 ・係活動、委員会活動に進んで取り組む児童の割合を80%以上にする。	B	B	
	⑫ 豊かな人間関係を培う、交流活動の充実	・異年齢の集団との交流活動を意図的・計画的に実施する。	B	B	

(5) 人権教育	13	人権尊重の精神と実践的態度の育成	<ul style="list-style-type: none"> 年間指導計画に基づき指導を進め、学校生活が楽しい児童の割合を90%以上にする。(いじめ防止) 友達のよさを認め合う場を設定し、掲示するなど可視化を図る。(「今日のキラリ」「ほめ言葉シャワー」などの取組、ノートの書き方賞賛の掲示など) 教室に掲示する児童の作品には、指導者のコメントを入れ、自己肯定感の高揚を図る。 	B	B	<p>13 人権週間において、人権に関する本の読み聞かせや学活や道徳の学習で人権について考える機会を設けた。「友だちも自分も大切に」ことをめあてに、普段よりは意識して行動できたのではないかなと思う。時間が経つと、子どもたちの意識も薄れてしまうと聞かれるので、声かけを続けていきたい。</p> <p>13 校内研究委員会では、「グットなノートで賞」の掲示を予定しています。取り組みを通して、自ら工夫できるマイノートづくりを目指します。3学期も引き続き取り組む予定です。</p> <p>14 12月の人権週間では意識して取り組めたが、日頃は人権に関わる取り組みについて意識が低い。学級通信では、子どもたちのよさやがんばり、学級の様子を積極的に公開するようにする。</p> <p>14 担任が4月に発信した学級経営案のふり返りを伝える場面として、学期末だけでなく伝えていきたい。そして、人権的な内容についても学年の発達段階に合わせて触れ、どんな行事や学習でも、人権的な視点は入ってくるものと再認識して</p>
	14	保護者・地域と連携した人権教育の実践	<ul style="list-style-type: none"> 人権にかかわる取組について、学年だよりなどで紹介し、保護者への啓発を行う。 年1回、人権にかかわる授業を公開する。 	B	C	<p>15 「環境教育」単体で取り組むことはカリキュラム的に難しいので、SDGsとからめるなどして教材に組み込みながら、体験活動を仕組みたい。</p> <p>16 外国語以外の時間も利用して、ALTと一緒にできる学習を仕組みでみる。</p>
(6) 環境教育	15	共生を目指す環境教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 身近な環境にかかわる体験活動を各学年3回以上実施する。 	B	C	<p>17 学習規律について、毎日声かけを続けてはきたが、なかなか定着していないのが現状である。鉛筆を削る、下敷きをひく、「ぐう・ひた・びん」など基本的な学習規律については根気強く指導していく必要がある。</p> <p>17 中学年は特にルールが曖昧になってくる時期だと思うので、教師も「見過ごさない」という意識で、アンテナを張る必要がある。また、何でも「いけない」の注意ではなく、なぜいけないのか児童と共に考え、児童自身が判断できるようにしていきたい。</p> <p>18 「先生聞いてアンケート」を定期的に取り組み、10分間カウンセリングもやっている。先生に話すのは困ったことだけではなく、楽しかったことでもよいことを伝え、自分のこと(友だちのこと)を相手に伝える機会の一つと捉えていってはどうか。決められた時期に取り組み、新しい情報を交換できるようにするスピード感も大切にしたい。</p> <p>18 担任による、気になる子への保護者との連携はとても良いものであった。些細なことでも、気になったら相談しながら、子どものことで家庭と連携する意味では大変良い。</p>
(7) 国際理解教育	16	多文化社会に生きる国際理解教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ALTによる、母国の文化を紹介しながら、文化の違いや多様性を理解させる。 	B	B	<p>19 キャリア教育そのものならいをしっかりと共有したい。自分の進路を見つけることが目的でなく、いろいろな体験をしながら自分に合った生き方に結び付けていく指導でありたい。</p>
(8) 生徒指導	17	いじめを許さない集団づくり	<ul style="list-style-type: none"> 学習規律の確立や豊かな人間関係を築く学級経営を進める。 「いじめはいけない。ゆるさない。」という学級風土を築く。 いじめ防止に関わる児童集会を年1回以上設定する。 	B	A	<p>20 今学期もケース会議を行った。その子の実態について複数の先生で共有し、いろんな視点から支援策を組んでいくことが必要である。</p> <p>20 チェックリストや個別指導計画、教育支援計画を作成しながら、児童理解に努めている。本人や保護者の困り感を毎年確認して引き継いでいきたい。複数対応の視点を学年ではなく、まずはその子に対するものがあるという認識であってほしい。複数で対応することで、適切な指導内容について相談できる。</p> <p>21 個別の支援計画・指導計画をもっている子に関して、2学期末に保護者と面談し、2学期の学習・生活の成果と課題について伝え、今後の支援の仕方について一緒に考えていき</p>
	18	学校不適応児童生徒へのきめ細かな対応	<ul style="list-style-type: none"> 教育相談週間「10分間カウンセリング」や児童・保護者アンケートから児童の心身の状況を把握し、意図的・計画的に教育相談活動を実施する。 	A	A	<p>22 行動する前に自身で考える、友達がしていることを真似をして良いか判断する、怪我や事故が起こる前に注意し合える子どもにしたい。些細なことだが、椅子をカタカタとつ座る子、廊下の曲がり角で走っている子、物を振り回している子等は、その都度声かけをしている。周りの子も声かけをするようになってきた。本人の意識が高まる手立てを考えていきたい。</p> <p>23 基本的な生活習慣はついてきていると感じるが、気持ちよくできているものは取り上げて褒め、気になるものについても、その都度取り上げて確認し(話し合い)、質を上げていきたい。</p> <p>23 早寝・早起き・朝ごはんについては保護者と連携して取り組んでいきたい。</p>
(9) 進路指導	19	キャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 学年の発達段階に応じ、自分のよさや夢を語ったり書いたりする場を設定し、自分のよさを発見し、将来に夢や希望をもって生きようとする意欲や態度を養う。(年2回) 	B	C	<p>24 2学期は5学年で校内研究を行い、学ぶことがたくさんあった。研究会で学んだことを普段授業でも生かせるよう、1時間1時間の教材研究を大切にしていきたい。</p> <p>24 少人数ならではの良さを生かして、みんなが分かる!できた!たのしい!となれるよう教師の力量を高めていきたい。</p> <p>25 不祥防止や人権教育研修を目標回数実施することができなかった。年間計画や月の行事予定などに入れて、計画的に研修を実施できるように努める。</p> <p>25 危機管理については、自覚が足りない部分があり、とっさの時に行動できるようにイメージをしておかなければいけない。</p>
(10) 特別支援教育	20	特別支援教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 全児童の「チェックリスト」を実施し、適切な指導・支援を検討し実践する。 必要に応じて支援体制づくりを行う。 学期1回以上の特支推進委員会を実施する。 	B	A	<p>26 地域人材、資源の活用については、総合的な学習でのフィールドワークや社会科の校外学習やバーチャル校外学習などの機会に実践できた。次年度に向け、他学年の取り組みについてもわかるとよい。</p> <p>26 学年の学習で地域の人材や資源を活用できる場面がないか、年度末にふり返って引き続きを行いたい。</p> <p>26 登下校の安全確保は、緩やかに保護者・地域へ移行していくよう努める。</p> <p>27 HPが十分、情報の発信源となっている。今後も充実した内容を発信できるとよい。</p>
	21	個別の教育支援計画の作成と活用	<ul style="list-style-type: none"> 個別の教育支援計画を活用する。 各学期および年度末に、支援計画・指導計画について保護者と相談し、適切な支援・指導に当たれるようにする。 	B	B	<p>28 点検はできているが、改修を待たずに危険箇所の改修を随時すまていただけるよう教育委員会への要望を強くしていく必要がある。</p> <p>29 学習アシスタントによる環境整備はとても有効に機能している。</p>
(11) 保健安全教育	22	安全教育の充実と安全管理体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> 月1回防犯パターの点検を実施する。 児童のけが防止、危険回避のため、ヒヤリ・ハットした体験を交流し危機意識を高める。児童にも示し、危険回避意識を高揚させる。 	B	B	<p>30 学校が行っていることがしっかり家庭に伝わり、学校が安全対策をしっかり行っていることが評価されている。今後も継続していきたい。</p> <p>30 笑顔で登校し、元気に外遊びをしたり読書や絵を描いたりして休み時間を過ごす子どもたちを見てると本当に嬉しく思う。楽しいの意味を吟味し、楽しい=案ではないことを忘れず、授業がわかる、できなかったことができるようになった、少しでも良くなった等を子ども達が実感できるように心掛けた。</p> <p>31 子どもは「学校が楽しい」と答える子が90%以上で回答しているが、保護者は「子どもが楽しく学校生活を送っている」と捉えてくださっている方は低い。子どもが期待して登校、満足して下校を目指して、日々の学校生活に楽しさを見出し、納得して帰れるよう心掛けた。</p>
	23	基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> 「早寝、早起き、朝ごはん」を推進し、できる児童の割合を90%以上にする。 	B	B	<p>30 学校が行っていることがしっかり家庭に伝わり、学校が安全対策をしっかり行っていることが評価されている。今後も継続していきたい。</p> <p>30 笑顔で登校し、元気に外遊びをしたり読書や絵を描いたりして休み時間を過ごす子どもたちを見てると本当に嬉しく思う。楽しいの意味を吟味し、楽しい=案ではないことを忘れず、授業がわかる、できなかったことができるようになった、少しでも良くなった等を子ども達が実感できるように心掛けた。</p> <p>31 子どもは「学校が楽しい」と答える子が90%以上で回答しているが、保護者は「子どもが楽しく学校生活を送っている」と捉えてくださっている方は低い。子どもが期待して登校、満足して下校を目指して、日々の学校生活に楽しさを見出し、納得して帰れるよう心掛けた。</p>
(12) 研究・研修	24	教職員の資質・指導力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 児童が主体的・対話的で深く学ぶ授業づくりに取り組む。(確かな学力・主体的に学ぶ力の育成) 常に学び続ける教師をめざす。(授業改善に向けた校内研究7回実施) 	B	B	<p>26 地域人材、資源の活用については、総合的な学習でのフィールドワークや社会科の校外学習やバーチャル校外学習などの機会に実践できた。次年度に向け、他学年の取り組みについてもわかるとよい。</p> <p>26 学年の学習で地域の人材や資源を活用できる場面がないか、年度末にふり返って引き続きを行いたい。</p> <p>26 登下校の安全確保は、緩やかに保護者・地域へ移行していくよう努める。</p> <p>27 HPが十分、情報の発信源となっている。今後も充実した内容を発信できるとよい。</p>
	25	教職員の危機意識の高揚	<ul style="list-style-type: none"> 不祥防止研修(5回)人権教育研修(4回)危機管理研修実施。 危機管理マニュアルの周知。 シミュレーション訓練を6回以上実施し、危機意識の向上を図る。 	B	C	<p>28 点検はできているが、改修を待たずに危険箇所の改修を随時すまていただけるよう教育委員会への要望を強くしていく必要がある。</p> <p>29 学習アシスタントによる環境整備はとても有効に機能している。</p>
(13) 地域との連携	26	保護者・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> 保護者への適切な対応、支援・助言に努め「学校の先生には、子どものことについて気軽に相談できる」と回答する保護者の割合を80%以上にする。 全学年で地域人材、資源を活用した授業を3回以上意図的・計画的に実施し、郷土愛を育む。 	B	B	<p>30 学校が行っていることがしっかり家庭に伝わり、学校が安全対策をしっかり行っていることが評価されている。今後も継続していきたい。</p> <p>30 笑顔で登校し、元気に外遊びをしたり読書や絵を描いたりして休み時間を過ごす子どもたちを見てると本当に嬉しく思う。楽しいの意味を吟味し、楽しい=案ではないことを忘れず、授業がわかる、できなかったことができるようになった、少しでも良くなった等を子ども達が実感できるように心掛けた。</p> <p>31 子どもは「学校が楽しい」と答える子が90%以上で回答しているが、保護者は「子どもが楽しく学校生活を送っている」と捉えてくださっている方は低い。子どもが期待して登校、満足して下校を目指して、日々の学校生活に楽しさを見出し、納得して帰れるよう心掛けた。</p>
	27	ホームページによる情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ホームページの更新を2日に1回以上行い、学校の地域への情報発信源とする。 	A	A	<p>30 学校が行っていることがしっかり家庭に伝わり、学校が安全対策をしっかり行っていることが評価されている。今後も継続していきたい。</p> <p>30 笑顔で登校し、元気に外遊びをしたり読書や絵を描いたりして休み時間を過ごす子どもたちを見てると本当に嬉しく思う。楽しいの意味を吟味し、楽しい=案ではないことを忘れず、授業がわかる、できなかったことができるようになった、少しでも良くなった等を子ども達が実感できるように心掛けた。</p> <p>31 子どもは「学校が楽しい」と答える子が90%以上で回答しているが、保護者は「子どもが楽しく学校生活を送っている」と捉えてくださっている方は低い。子どもが期待して登校、満足して下校を目指して、日々の学校生活に楽しさを見出し、納得して帰れるよう心掛けた。</p>
(14) 施設・設備	28	施設・整備の安全確保	<ul style="list-style-type: none"> 月1回以上の安全点検の実施による、施設の安全確保の励行。 	B	B	<p>30 学校が行っていることがしっかり家庭に伝わり、学校が安全対策をしっかり行っていることが評価されている。今後も継続していきたい。</p> <p>30 笑顔で登校し、元気に外遊びをしたり読書や絵を描いたりして休み時間を過ごす子どもたちを見てると本当に嬉しく思う。楽しいの意味を吟味し、楽しい=案ではないことを忘れず、授業がわかる、できなかったことができるようになった、少しでも良くなった等を子ども達が実感できるように心掛けた。</p> <p>31 子どもは「学校が楽しい」と答える子が90%以上で回答しているが、保護者は「子どもが楽しく学校生活を送っている」と捉えてくださっている方は低い。子どもが期待して登校、満足して下校を目指して、日々の学校生活に楽しさを見出し、納得して帰れるよう心掛けた。</p>
	29	学習環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> 学習活動の充実に向け、空き教室や特別教室を有効に活用する。 	B	B	<p>30 学校が行っていることがしっかり家庭に伝わり、学校が安全対策をしっかり行っていることが評価されている。今後も継続していきたい。</p> <p>30 笑顔で登校し、元気に外遊びをしたり読書や絵を描いたりして休み時間を過ごす子どもたちを見てると本当に嬉しく思う。楽しいの意味を吟味し、楽しい=案ではないことを忘れず、授業がわかる、できなかったことができるようになった、少しでも良くなった等を子ども達が実感できるように心掛けた。</p> <p>31 子どもは「学校が楽しい」と答える子が90%以上で回答しているが、保護者は「子どもが楽しく学校生活を送っている」と捉えてくださっている方は低い。子どもが期待して登校、満足して下校を目指して、日々の学校生活に楽しさを見出し、納得して帰れるよう心掛けた。</p>
(15) その他	30	幼児児童生徒の満足度	<ul style="list-style-type: none"> 楽しく学校生活を送っている児童の割合を90%以上にする。 	A	A	<p>30 学校が行っていることがしっかり家庭に伝わり、学校が安全対策をしっかり行っていることが評価されている。今後も継続していきたい。</p> <p>30 笑顔で登校し、元気に外遊びをしたり読書や絵を描いたりして休み時間を過ごす子どもたちを見てると本当に嬉しく思う。楽しいの意味を吟味し、楽しい=案ではないことを忘れず、授業がわかる、できなかったことができるようになった、少しでも良くなった等を子ども達が実感できるように心掛けた。</p> <p>31 子どもは「学校が楽しい」と答える子が90%以上で回答しているが、保護者は「子どもが楽しく学校生活を送っている」と捉えてくださっている方は低い。子どもが期待して登校、満足して下校を目指して、日々の学校生活に楽しさを見出し、納得して帰れるよう心掛けた。</p>
	31	保護者の満足度	<ul style="list-style-type: none"> 我が子は楽しく学校生活を送っていると答える保護者の割合を80%以上にする。 	B	B	<p>30 学校が行っていることがしっかり家庭に伝わり、学校が安全対策をしっかり行っていることが評価されている。今後も継続していきたい。</p> <p>30 笑顔で登校し、元気に外遊びをしたり読書や絵を描いたりして休み時間を過ごす子どもたちを見てると本当に嬉しく思う。楽しいの意味を吟味し、楽しい=案ではないことを忘れず、授業がわかる、できなかったことができるようになった、少しでも良くなった等を子ども達が実感できるように心掛けた。</p> <p>31 子どもは「学校が楽しい」と答える子が90%以上で回答しているが、保護者は「子どもが楽しく学校生活を送っている」と捉えてくださっている方は低い。子どもが期待して登校、満足して下校を目指して、日々の学校生活に楽しさを見出し、納得して帰れるよう心掛けた。</p>